



赤沢会場の様子

の持つ「ぬくもり」を感じることができました。

また、ウッドリンククラブでは、「木の魅力」を五感で感じたり、省エネ・耐震対策等についても学ぶことができ、木の住まいの魅力を発信しています。

引き続き、国有林野事業のPRと木材利用の推進がさらに図れるよう、会議・研究会をより充実したものとしていきたいと考えています。

木曽のポーは一〇〇歳！

「木曽署」九月二十八日、上松町において、木曽森林鉄道ポールドウィン号生誕一〇〇周年記念イベント「木曽のポーは、一〇〇歳」が開催されました。

このイベントは、「木曽のポー」の愛称で親しまれているポールドウィン一号車の生誕一〇〇周年を祝って開催された

もので、現在森林鉄道が運行されている赤沢会場と上松駅前会場の二会場で開催されました。

開会式が行われた赤沢会場では、上松町長よりポールドウィン一号車へ感謝状と記念のエンブレムが贈られた後、実際に汽笛を鳴らしての乗車体験やモーターカーの運転体験、記念撮影などが行われ、普段触れることができない汽笛の吹鳴体験では長蛇の列ができていました。

上松駅前会場では、ミニSL版ポールドウィン号の体験乗車、木曽森林鉄道資料や写真パネルの展示、記念グッズの販売、森林鉄道軌跡を巡るウォーキング大会など多くの催しが行われました。

また昨年からは長野朝日放送が、木曽森林鉄道と赤沢自然休養林取材して制作した、「ポーおばあちゃん」の上松町で過ごした生涯を描いた特別企画番組も放映され会場を一層盛り上げました。

このイベントは、上松町内の観光、教育、NPOなど、幅広い関係者により企画実施されたもので、上松町と国有林野事業との深い関係を感じることができました。秋の晴天の中、大人から子どもまで「鉄ちゃん」になりきって楽しんだ一日となりました。

森林ふれあい推進事業での協定締結によるNPOとの連携イベント

「中信署・技術普及課」九月二十七日に

長野県北安曇郡松川村馬羅尾国有林において「四季の森めぐり」あがりこサワラを見に行こうと森林整備で森元氣」と題したイベントを、NPO法人やまぼうし自然学校と共催で実施しました。

これは、森林・林業の普及啓発を目的として、国有林を利用したイベントの企画運営が可能なNPO等の団体と協定を締結して行う「森林ふれあい推進事業」の一つとして行ったものです。



あがりこサワラ

当日は、ホームページや募集チラシを見て集まった親子連れや高校生等二十三名が参加し、目的地の「あがりこサワラ」に向けて林道を歩きながら「ネイチャービンゴ」を実施。花や木の実、キノコや大きなカエル等を発見するたび、「あつたよー！」と嬉しそうな声が響きました。到着したあがりこサワラの前では、誰もがその巨木の神秘的な樹形に驚き、あがりこの成り立ちについて職員から説明を受けると、百年以上も昔の森と共存してきた先人たちの暮らしに思いを馳せていました。

昼食には、皆で拾い集めた朴葉を使っ

た、やまぼうし自然学校特製の「朴葉味噌」が登場。皆と一緒に食べるこうした野外料理は、森での活動をさらにワクワク盛り上げてくれます。



初めての除伐体験

休憩後は、中信署と技術普及課の指導の下「除伐体験」を実施。立っている木を伐るのは初めての参加者が多く、息を切らしながら慣れないノコギリを懸命に動かし汗を流していました。玉切り作業をしながらヒノキの断面の香りを楽しむ親子の姿もみられ、一様に清々しい笑顔でイベントを終えました。

貴重なあがりこサワラの森が、今後も松川村の歴史を学ぶ貴重な資源として学習面や観光面からも活用されることに期待しています。

東山道（とうさんどう）もみじ祭り

「東濃署」十月十九日、中津川市神坂地区において「東山道もみじ祭り」が開催され、「紅葉を楽しみながらウォーキング」を始め、豊かな自然を活かした各種イベント、地元特産品等の即売、餅投げ、地元の味噌を使用した豚汁サービス

などが行われました。

「紅葉を楽しみながらウォーキング」は、湯舟沢国有林の中にある「森の巨人たち一〇〇選」に認定された神坂大檜や神坂峠・富士見台高原周辺に広がる紅葉を楽しむイベントです。東濃森林管理署では森林官をはじめとした署職員が案内役となり、森林整備や治山事業の大切さを紹介しました。ご案内した参加者は七十五名にのぼり、用意された大小のマイクロバス三台に乗りきれず、一部の方については、参加をお断りするほどの盛況となりました。また、当署が道具などを提供した、地元中学生主催の「丸太切り体験」も人気を博しました。



紅葉を楽しむ皆さん

東山道とは、古代の律令時代に設けられた七道のひとつで、近江（滋賀県）を起点に、美濃（岐阜県）・信濃（長野県）を経て陸奥・出羽国（東北地方）に通じていたとされる官道で、中でも最大

の難所といわれた神坂峠（みさかとうげ）は、「ちはやふる神の御坂に幣（ぬさ）まつり斎（いほ）ふ命は父母のため」と、万葉集にも歌われ、一三〇〇年の歴史・ロマンが香る古道として地域の方々から大切にされています。

地域で開催される各種イベントへの参加を通して、地域の方をはじめとして多くの方に国有林のサポーターとなっていただけよう努めていきたいと考えています。

伐採・造林作業一貫システムの勉強会

【愛知所】九月五日、段戸国有林において、「伐採・造林作業一貫作業システム」の勉強会を開催し、愛知森林管理事務所の事業担当者がそれぞれの取組みについて説明をしました。

愛知県では林業再生をテーマに、造林から伐採・流通までのコスト削減に向けたシステムの普及・啓発に努めており、国有林の高性能林業機械とコンテナ苗を活用した伐採から造林までの一貫作業システムの取組を勉強したいとの愛知県の要請を受けて開催したものです。

当日は、小雨の降る中で、愛知県庁をはじめ各農林水産事務所林務担当職員、新城市産業・立地部森林課の職員、当所職員等約三十名が参加しました。

午前中、コンテナ苗の生産について、苗木生産者の前田樹苗園さんより説明を



コンテナ苗の植付の様子

受け、約一〇〇本のコンテナ苗を全員で植え付ける体験を森林整備官の指導で行いました。

午後は、先進的林業機械を使用し、一貫作業システムを実行している現場において、作業システム、コンテナ苗の植付けの説明、さらに全木集造材で発生する枝葉をチップ化するチップヤードを視察し勉強会を終了しました。

それぞれの作業の流れの中で、コンテナ苗の生産コスト、作業システムの生産性、バイオマス原材料の流通、獣害対策等熱心に意見交換が行われ、当所が取り組んでいる「伐採・造林一貫作業システム」について理解を得ていただく良い機会となりました。

生産性向上現地検討会

【北信署】十月三日、管内の飯縄山国有林において、製品生産事業における生産性向上現地検討会を開催しました。

この検討会は、地球温暖化対策と併せて木材の持続的供給の観点から、高齢級化が進行している人工林の若返りを図るための効率的な主伐・再造林の実施方法を考えるために開催したものです。

当日は生憎の曇り空でしたが、東信署や富山署の職員をはじめ、東北信地区の素材生産請負事業体、県関係者に加え、関東局上越署の職員など総勢三十九名が参加しました。



林地残材コンテナをフォワーダ運搬

当署では、集造材等により発生する端材等の林地残材をバイオマス発電用資源として販売しており、中でも比較的生産性の高い宮澤木材産業株式会社が実施している間伐事業地において、伐倒から集造材、林地残材の搬出に至る作業を視察し、宮澤木材産業専務の宮澤氏から実施工夫している点や留意点について話を

聞きました。参加者からは、林地残材をコンテナに詰めてフォワーダで搬出する工程に関する質問が多く出されました。

午後からは、林地残材等を実際に利用して発電を行っている、長野森林資源利用事業協同組合の「いづなお山の発電所」に会場を移し、バイオマス発電の仕組みや木質燃料の供給実態について説明を受けた後、林地残材や建築廃材等を実際にチップに加工する様子を見学して検討会を終了しました。

生産性は、単位労働量当たりの出材量であることから、地形的条件等で作業効率の向上に限界があるとすれば、林地残材等の有効活用により出材量を増加させることが生産性向上のための一つの手法だと考えます。

地元高校生が森林土木事業 (治山工事)の職場体験

〔東濃署〕 十月八日～十日までの三日間、岐阜県立恵那農業高等学校環境科学科二年生の生徒二名が、東濃署において治山事業の職場体験を行いました。これは、地域の未来を担う高校生に、日頃は目にする機会の少ない森林土木に対する理解を深めてもらおうと、請負事業体の協力も得て、今年度から新たに始めた取り組みです。

参加した片田隆貴君と村本圭士郎君は加子母裏木曽国有林(中津川市加子母)の山腹工事現場において監督業務(法切

工の出来形確認)の補助作業、上村恵那国有林(恵那市上矢作)の復旧治山工事現場において丸太筋工の施工を体験しました。

また、署員の指導を受けてポケットコンパスによる縦断測量とトータルステーション(光波測距儀とセオドライトを組み合わせたもの)による横断測量を行いました。さらに、測量した成果を用いて、建設CAD(専用ソフト)で平面図、縦断面図、横断面図を作成する実習にも取り組みました。



丸太筋工の施工を体験

体験した生徒からは、「治山工事についての専門知識や現場の雰囲気、社会人としての心構えなどについて学ぶことができました。」「山腹工事現場では、とても危険な現場作業をしている方々を見て自分もあんな仕事をやってみたいと思いました。」「特に丸太筋工の作業は、とても疲

れたけどいい体験ができたし、楽しかったです。』との感想がありました。

当署としては、これからも高校生の森林土木に関する興味と関心を高め理解を深めることができるよう、取り組みを重ねていくことにしています。

寄稿

かつて木曽ヒノキや天然広葉樹を運材し、地域住民に愛され続けてきた森林鉄道に関する思い出や楽しい出来事などを、OBの皆様から、ご寄稿いただきました。国有林の歴史を示す貴重な財産としてここに掲載させていただきます。

御神木・林鉄に乗る

元長野局作業課 向井弘氏

第六十一回伊勢神宮式年遷宮(平成五年)の御杣始祭が、昭和六十年六月三日、上松営林署小川入国有林で挙行された。

この神事は、御神体を奉安する御器を造る御樋代木(御神木)を伐採する祭で、内宮材の上に外宮材が交叉するように伐倒される。伐倒された御神木(木曽ヒノキ)は、六・六メートルに玉切り(末口六十センチ)され、集材線下まで人力木寄せ、集材機により赤沢森林鉄道保存線の特別仕立てされた台車に積み込みました。午後三時半、御神木を乗せた台車を

一三一号機関車が牽引し、五百メートル先の森林鉄道資料館停車場へ向けて、赤沢の山一杯に響き渡る警笛を鳴らし静かに出発、途中「あすなる橋」で一時停車し見学者へのサービス、そしてカメラの放列の中をゆっくり進み、十五分かけて停車場に到着した。



御神木運材列車(右下は御神木の仮奉安所)

停車場からは、トラックで仮奉安所前の広場に移され、仕上げ、化粧掛けが行われ、一晚安置、翌日上松町に向けて出発した。

御杣始祭から十日後の六月十三日、この祭で支障木となり伊勢神宮に立木処分された材(木曽ヒノキ、五メートルに玉切り)を二組の運材台車に積み込み、十時三十分、一三一号機関車が牽引する森林鉄道最後の運材列車が発出した。

その後、赤沢森林鉄道保存線が観光用として復活し、多くの人々が赤沢自然休養林を訪ねている。



「東濃署 西股森林事務所」

地域技術官 小幡雅和

西股森林事務所は、岐阜県中津川市の北東に位置する付知町に所在し、旧加子母村と旧付知町内の国有林約七二〇〇鈔及び公有林野等官行造林地（二団地）一四〇鈔を管理しています。

管内は、裏木曽県立自然公園に指定され、付知峡自然休養林（五二一鈔）をはじめ、周辺地域にはオートキャンプ場や不動滝、護山神社奥社などの名所があり、初夏から晩秋にかけて多くの観光客が訪れます。



木曽ヒノキ備林

当森林事務所の加子母裏木曽国有林には、木曽ヒノキを主とした天然林やブナ、ミズナラなどの広葉樹林の彩り鮮やかな森林が広がり、なかでも木曽ヒノキ備林（旧神宮備林）では、歴史的伝統を継承する式年遷宮の伐採式が二十一年に一度行われています。

木曽ヒノキ備林の周辺では、木曽ヒノ



収穫調査の様子

キを主とした林木遺伝資源保存林（四四鈔）、ヒノキとサワラの合体木（樹高三六メートル、樹齢およそ五六〇年）、名古屋城本丸御殿の伐採式跡地や二代目大ヒノキ（直径一五四センチメートル、樹高二六メートル、樹齢千年）の雄姿を見ることが出来ます。初代大ヒノキは昭和九年の室戸台風で損壊し、現在では四枚の輪切り板が、「ふれあいのやかたかしも」（中津川市加子母）、護山神社（同市付知町）、瀬戸国有林森林文化交流館（愛知県瀬戸市）、名古屋科学館（名古屋市中区）にそれぞれ保管され、当時の雄姿を後世に伝えています。

同国有林内には、付知峡自然休養林が設定されており、裏木曽の深山から西股谷を落下する荘厳な「高樽の滝」（落差二二メートル）など、新緑から紅葉シーズンまで多くの観光客が訪れます。

また、「ランプの宿」で知られる「渡合温泉」や「高時山」、「小秀山」への登山は知る人ぞ知る名所としてリピーターが多く訪れています。

当森林事務所は、首席森林官一名、地域技術官一名、森林技術員三名の五名の職員で生産請負事業や森林整備事業などの監督業務のほか、自然休養林や木曽ヒノキ備林の案内、来訪者の安全確保のための修繕・管理業務とともに、この時期の主な業務として、収穫調査、境界巡検、林道修景、遊歩道の修繕等の業務と多岐にわたる業務を行っています。



境界巡検の様子

この森林事務所に地域技術官として配置され、森林事務所の各種事務や調査、監督業務を戸惑いながらも森林官や森林技術員の皆さんに支えられながら安全第一に業務を進めています。これから冬期間に向かって益々現場の作業環境が厳し

くなります。事務所職員一丸となって今年度の事業が無事故・無災害で遂行できるように取り組んでいきたいと考えています。

（今回の森林官からの便りは、西股森林事務所所属する小幡雅和地域技術官から投稿されたものです。）



森林事務所職員と（前列中央が筆者）

人のうごき

中部森林管理局人事

十一月一日付

▽職務復帰（南信署森林整備官）

森田千恵子

行事・会議等の予定

◎養成研修（森林官養成科）

12月3日～12日 中部局研修所

◎次世代架線集材作業勉強会

12月16日

中部局



スギ板の天然乾燥

◆**山県市**
山県市（やまがたし）は、二〇〇三年旧山県郡の三町村（美山町、高富町、伊自良村）が合併し誕生しました。岐阜県内では平成の大合併で誕生した最初の市になります。

ここでは、山県市の北部美山地域を中心に紹介します。

◆**製材の町**
美山地域はかつて全盛期には一〇〇軒以上の製材所が軒を連ね、三十年前には七十軒弱、現在は十八軒とその数は激減



あちこちで見られる天然乾燥の様子

この地域で最も大きな製材所の社長さんに話を聞きました。

薄いスギ板を扱っているので、乾燥には一番気を使うそうです。割れたり、反ったり、また、板を天然乾燥する場合、元を上にして立てて乾燥するが、上と下では乾燥の度合いも違ってくるのか…苦労も多いけど「やっぱり天然乾燥は

していますが、今でも国道四一八号線沿いとその周辺には、スギ板の製材品を天然乾燥する光景があちこちに見られ、車から降り立つとスギの良い香りに街中が包まれています。

家内工業的に営んでいる製材所が、七割ほどを占めていることから、乾燥機をもたず従来からの天然乾燥が多いようです。

製材品はスギ板のみで、扱いも容易なことも天然乾燥が続いている要因なのでしょうか。



神崎川

神崎川沿いには、コテージやキャンプ場などを備えた施設があり、年間三万人弱の方が訪れています。中京圏の都市部からも比較的近く、しかも本物の自然

◆**神崎川**
市の最北部には神崎国有林があり、ここを源流とする神崎川は、透明度が高くすばらしい景観です。

感じが違うんだよ。」とおっしゃっていました。この製材所では天然乾燥したものを人工乾燥機でさらに含水率を下げ品質を均一にしてから出荷しているそうです。

製材所の一角では、レーザーを使った加工所もあり、名刺大サイズ厚さ一・五ミリ程度のスギ板に名刺を印刷したものも製作していました。「名刺入れには入りませんが」と笑っておられました。



明智光秀公の墓

◆**アクセス**
東海環状自動車道、関広見ICから国道四一八号線を経て約二十五分で、山県市役所美山支所

◆**明智光秀公の墓**
明智光秀は本能寺の変の後、山崎の戦いで敗れ、その後、逃げるところを落ち武者狩りに遭い命を落としたというのが定説となっていますが、この地には、山崎の戦で死んだのは影武者で、明智光秀公はその後、別名を名乗りこの地に住んでいたとの言い伝えがあります。

中洞白山神社の傍らには「明智光秀公」の墓があり、地元の方々によって祀られています。

が満喫できる場所となっており、利用される七割が名古屋方面からのお客さんです。